

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100582		
法人名	有限会社ナオエ		
事業所名	グループホームしのぶ園		
所在地	佐賀県佐賀市本庄町大字袋326-20		
自己評価作成日	平成30年4月15日	評価結果市町村受理日	平成30年8月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成30年 5月 9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

佐賀城内の博物館、美術館、本丸歴史館などの市街地に近い、静かな住宅街。近隣には、スーパー、薬局、飲食店、コーヒーショップが立ち並び、買い物や食事、軽食なども楽しめる環境です。平成27年に施設を新しく建て替え、施設内は落ち着いた雰囲気、空間造りとなりました。建て替えに合わせ、浴室の設備も、電動シャワーキャリーを導入、浴槽内に入ることの困難な利用者様も気持ちよく入浴を楽しむことができます。勤続年数の長いスタッフが多く、利用者様の不安や戸惑いも、あまり感じることもないようです。協力医療機関が24時間対応の訪問医療、また訪問看護センターとの連携も行っており、御家族の不安も少なく、安心を得ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街に位置し、近隣にはスーパーや飲食店が多く、買い物や外食等へ出かけたり、長年の近隣の方との関わりあり信頼関係が築かれている。地域の環境を活かした支援が行われている。施設内は明るく、清潔感があり「笑顔で、ゆっくり、楽しく」の理念に基づき 和やかな雰囲気作りが感じられ、訪問看護・訪問診療等、医療連携が充実しており、看取り支援も行われ安心して生活できるように取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔・ゆったり・楽しく」の理念の元、家庭のように過ごして頂く介護に努めている。職員にはミーティング、申送りの際に唱和、玄関先に掲示し誰もが目につくようにしている。	職員で話し合い作られた理念で、常に職員間で実践につなげられるように努められている。玄関に掲示し、ミーティングの時に職員で唱和して共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭り、清掃活動には積極的に参加させてもらっている。近隣住民と顔を合わせれば挨拶を交わし、時間があれば話をするようにしている。	保育園児や中学生のボランティアの訪問や、保育園の行事への参加等、行き来できる環境づくりが出来ている。長年にわたり地域の方との日常的な交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には、民生委員、自治会長、近隣住民の方々は、特に高齢の御家族がいらっしゃる方に参加して頂き、施設での様子や過ごし方を理解してもらっている。在宅の介護の相談にも対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、自治会長、近隣住民の方々、御家族の意見、貴重なアドバイス等をサービスに取り入れ向上に努めている。	2ヶ月に1度開催され、家族、地域の方、地域包括支援センター職員等の参加があり、行事報告や相談等が行われ、サービス向上に活かす取り組みがなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	佐賀市主催の集団指導に参加。市町村の担当者(社会福祉協議会、佐賀市福祉事務所)に相談しアドバイスを受けている。消防署中央出張所、立ち合いの避難訓練も予定している。	行政より、入居相談があったり、市の担当職員へ相談や災害時の協力等、日頃から協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを作成し、問題意識の共有の為、話し合いを行っている。拘束の時間も記録をとっている。	身体拘束は、基本的にはしないように努められているが、入居者の安全確保の為、どうしても必要と判断された場合は、医師、家族と相談し、説明同意を受け行われている。	医師、家族、ホーム職員全体で話し合いながらではあるが、緊急性、切迫性において身体拘束が行われており、身体拘束をしない取り組みが確立できるように、専門医を交えた更なる取り組みを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に参加している。ミーティング時に参加した研修会の内容を発表してもらい学習を重ねている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修に参加。研修会での内容を、ミーティング時に発表してもらい学習を重ねている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に必ず、重要事項説明書、その他事項の説明を必ず行っている。説明に対する質問は、その都度お答えし納得された上で、ご契約頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置し対応している。御家族の面会時、ケアプランの説明時に意見を頂いている。また、何でも話して頂けるように御家族の近況にも耳を傾けている。	毎月お便りを配布し、日頃の生活状況の報告を行い、意見や要望が表出しやすいように努められている。意見や要望については、速やかに話し合い、業務に反映するように努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日々の業務の時間外でも常に意見の交換を行い、早期解決、改善に努めている。	日頃から主任を中心に意見や提案を取りまとめ、代表者へ相談し、出た意見を反映できるように取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の把握をし、責任者から職員の勤務状況、業務の取り組みの報告を受け、処遇待遇に反映している。有給休暇も出来るかぎりの取得に努力している。介護福祉士による社内研修を二カ月に一回行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に参加できるようシフトの調整も行っている。募集内容を確認し、適材の職員へ促す努力も行っている。情報共有の為の発表の場も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の勉強会の呼びかけには参加し、交流を行っている。他事業所の見学も行い、取り入れられるものは取り入れる努力をしている。他事業所からのアドバイスを受ける事もある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、必ず御本人とお会いさせて頂き、御家族、担当者からの聞き取り、御本人からも色々話を伺う。入居後、環境に慣れるまでは、細かい言葉かけ心配を行い、安心して頂けるよう努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、施設見学時には、必ず管理者が立ち合いその際に、御家族の状況をお話頂く、話される内容には共感し、アドバイスとして意見も行う。入居後も面会時等には必ずお話し、何でも話して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学時には、詳しく話ができるよう管理者が対応している。相談の中で必要な支援を確認出来るような話を心掛けている。その他、担当ケアマネからも話を聴き、職員間で意見交換をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意見を尊重しながら、共に生活する中での気づきを大切にする。入居者様の長い人生経験から教えて頂く事も多く、良い形で支えあう関係に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家庭である、当施設に家族が集まるのは当然と考え、お誕生日会、クリスマス会等の行事ごととは勿論、普段でも面会に来て頂けるよう、また、意見要望も御家族には遠慮なく伝えてもらえるよう呼び掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族の協力を得て、友人、知人の訪問も積極的に呼びかけている。	重度化がすすみ、馴染みの場所への外出が難しくなっている状況で、知人・家族の訪問時は、自室でゆっくり過ごしてもらったり、訪問しやすい雰囲気づくりを心掛けられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでは、座る位置を考え、入居者様が誰とでも話ができる環境造りに努めている。また、職員が仲介役に参加し話の輪が広がるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入所中の利用者様を、入院され退所された方、また他の理由により退所された方々の方へ、面会にお連れしたりする。御家族の方に、退所後の様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様御本人、御家族の方より確認を行っている。確認した意見を取り組みながら、日常での会話や生活の様子を観察し、希望に添えるよう努めている。	重度化がすみ、自分で思いや意向を言われる方が少なく、日々の会話の中や生活歴から意向を推測したり、表情から把握するように努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前までの生活歴を、御本人、御家族、担当ケアマネから確認し経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活のリズム、過ごし方を大切に、本人のやりたい事、出来る事、不安に感じる事を確認する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを基に記録を残す。御家族の意見と日常生活状況を踏まえたモニタリングを行っている。ミーティング時に職員の意見を反映し、ケアプランを見直す機会を設けている。	家族・本人の意向を把握し、介護計画が作成されている。計画に基づきサービス実施記録が整備され、評価もなされており、現状に即した介護計画が作られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の経過記録、食事量、飲水量、排泄等を個別に記録。送りノートにも特変事項、職員の気づきを記録し、職員間で共有している。ケアプランの見直しにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを行い、常に「その人らしさ」を大切に活かすよう支援をしている。誕生会、ボランティアの来園時に、御家族の出席をお願いしている。毎月、それぞれの御家族へお手紙、2か月に1回の園便りでお伝えしている。御家族がおられない利用者は希望をくみ取り個別に買い物へ御連れしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	静かな住宅街に位置しているながら、近隣にスーパー、飲食店があるため、買い物や外食に出かけている。近隣保育園の発表会、運動会の行事にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、御家族の希望を大切にしている。了解を得た入居者様に至っては、園の協力医療機関に変更頂く。また、その際に協力医療機関の対応（定期、急変時、夜間の往診）を説明し、安心を得ている。必要に応じての病院受診には、スタッフが付添している。	かかりつけ医の継続受診ができるが、希望に応じて協力医や往診等状況にあった医療が受けられるように支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護センターと連携し、週1回健康管理の訪問をして頂いている。利用者の異常を感じた場合は、こまめに主治医、看護師へ連絡して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供を行っている。不明な点は、いつでも連絡して頂けるよう伝えている。しばしば面会に行き、状態観察すると共に病院サイドとの情報交換も行っている。退院時には、事前に病院側と今後の必要なケアについて話を伺い、退院後の生活がスムーズに行える様に体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を入居された際に御家族の方へ説明している。本人の意向、職員、主治医、看護師との話し合い、最後までその人らしさを大切にすることを指針に盛り込んでいる。	重度化した場合の指針の説明は、入居時に行われ、看取り支援の時には、主治医、家族、訪問看護等のチーム支援を行い、その都度、説明を重ね安心して医療・介護が行えるように取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル等を作成している。救命救急講習を受講している者もいる。痰吸引の講習修了者もあり、吸引機の準備もしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成している。避難場所までの安全な経路、時間を把握している。災害時に備えて、飲料水、非常食、オムツ、避難時のレインコートも用意している。	年2回消防訓練が行われ、夜間想定での訓練も行われている。各災害のマニュアルも作成され、地震訓練実施、備蓄整備もしっかり行われている。しかし、訓練時に地域の方の役割確認や、参加協力は十分とは言えない。	日頃の訓練を通して、地域の方との災害時の役割を確認し、協力体制を築くことに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳の維持を徹底し、丁寧な言葉使いの接し方をしている。個人情報の取り扱いには十分な注意を払っており、外部への持ち出しは例外を除き、厳禁としている。	異性での介助については、予め意向を確認し対応している。排泄や更衣時のプライバシーの配慮や日々の会話の中で誇りやプライバシーを損ねないように支援されている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人にあわせた言葉かけを行っている。言葉での表現が困難であっても、日常生活の中で注意深い観察を行い、本人の意思をくみ取るようにしている。自己決定が出来る様支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく過ごせるように個人の生活リズムに合わせている。起床時間や、食事の時間、1日のペースを大事にしてもらう支援を行っている。何事に対しても、強要はしない。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に、訪問美容サービスの来園をお願いしている。園でのお出かけや外食の際、希望される利用者の方には御化粧をしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人のお膳はもちろん、他利用者様のお膳も下膳してもらっている。配膳の際には、今日の献立を説明し、利用者様同士で食事の話を楽しくされている。	誕生日等イベントの時は、特別に食事を頼んだり、季節に応じてメニューを工夫して食事を楽しめるように努められている。テーブル拭きをしたり、入居者の能力を活かす支援がなされている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を用いて把握している。食事以外の水分補給には、便通改善も考え、乳酸菌飲料を用いている。体調、身体状況も考え、食事の形態もミキサー食、刻み食など対応している。減塩食についても、塩分計測器を使用し、出来る限りの対応をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きを行っている。定期的に協力歯科医院の受診、口腔内のチェックをお願いし、必要な場合の治療もお願いしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を用いて把握して、一人一人の排泄パターンを考察している。排泄の訴えがある方は、その都度トイレに誘導している。その方々以外の人も、定時にトイレへ促している。夜間も出来る限りオムツは使用せず、トイレ、ポータブルトイレの利用を促している。	日中はトイレで排泄できるように支援し、生活リハビリを意識した取り組みがなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取は定時に必ず促している。また、乳酸菌飲料の摂取は利用者様にも喜んで頂いている。便秘の際は、主治医に相談、服薬、看護師での対応で改善を行っている。服用の薬に関しても決まりを作って対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決めているため、利用者の方々も理解しておられる。また、その日に限らず、利用者様の清潔を保持するために必要な際は、その都度入浴を行っている。電動シャワーキャリーの導入で、浴槽内に入る事が困難な利用者様もゆったりと、入浴できる楽しみが増えられている。	入浴は週3回、希望に添えるように支援されている。重度化が進んだ入居者には、電動シャワーチェアを活用し、不安なくゆっくり入浴できるように配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中には、ラジオ体操やレクリエーション、散歩を行っている。午前中は活動の時間、午後は希望される利用者様には午睡をして頂いている。それ以外の方も、起床時間から長い時間、座位の姿勢が続いておられる為、足を上げて休んでもらったり、ソファでくつろいでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1か所の薬局での管理をお願いしている。薬の変更等にも日曜祝日なしに対応してもらっている。園でも当日の服薬分のみを別ケースに分け、当日の服薬後の空袋もその日1日は保管し、誤薬防止につなげている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の後片付け、食事用エプロンの配布、植木の水やり、洗濯物を畳んで頂く等、利用者様の出来る範囲の役割をお願いしている。カラオケがお好きな方が多く、いつも楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	曜日を決めて散歩に御連れしている。季節ごとの桜、向日葵、彼岸花等、また近隣への外食、ショッピングモールへの買い物と予定を立て外出している。近隣の飲食店さんにも快く受け入れてくださる。	車いすの方が増え、遠出することが減り、車いすで散歩し、近隣の飲食店へ行ったり、地域行事へ参加し日常的な外出ができるように支援されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しい利用者様が多いため、買い物へ行った際などは、その場で職員が利用者様へ、お金をお渡しし、購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が望まれる時には連絡をしてよいかを御家族様へ確認しておく。希望される時は、職員が電話し本人へお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物を置き、緑が多い場所になっている。床、天井、テーブル、建具も落ち着いた色味、木目を生かした穏やかな雰囲気を作っている。オープンキッチンにし、食事の臭いが感じられる。	明るく清潔感があり、大きな黒板が設置され、チョークで、連絡事項が書かれ、懐かしい雰囲気が感じられる。夜間は職員の靴の音等にも配慮され、居心地良く過ごせるように努められている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは、窓際にソファを置きテーブルから少し離れた別の空間を意識している。利用者様同士が話をしやすいように椅子を配置したり、車椅子が入るスペースも考えた空間にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具なども持ち込み頂けるように入居時は話をしている。仏壇も持ち込みの希望がある場合も柔軟に対応している。必要に応じて個室でのテレビ視聴が出来る様、配線工事もしている。	各居室には、気持ちが落ち着く色として、サーモンピンクのカーテンが取り付けられている。使い慣れた物や仏壇等、自由に持ち込まれ、好みの居室空間が作れている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室前には、ネームプレートを用意し、名前を記入している。トイレドアには、張り紙をして分りやすくしている。居室内、廊下にも沢山の手すりを配置、安全に移動できるようにしている。手すりの色は壁との区別がつくように濃い色にしている。ホールに黒板を設置し、日付、受診日などの予定を記入している。		